

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500022
法人名	株式会社 お茶屋の里
事業所名	グループホーム 上の茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町二丁目8番15号
自己評価作成日	平成26年9月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月2日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

夏に夕涼み会を開催し、地域の人たち、家族も来てもらい、バザーや盆踊りで交流を深めている。 利用者の皆さんが「いつも笑顔で穏やかに」暮らせるように、職員も楽しく過ごせるようにしている。 ホームのみんなでいろんな所へ出掛けて行きたい。
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

出身地の「伊方町に行ってみよう」という利用者があり、ご家族と相談して、昨年春に管理者も一緒に出かけられた。自宅周辺の町並みはずいぶん様子が変わっていたようだが、よく通った食堂で食事する等、利用者はたいへん喜ばれたようだ。同級生の医師を受診している利用者があり、職員が付き添い支援されている。昔話も交えて少しおしゃべりもされるようだ。親戚や近所の方、以前利用していたスーパーの店員等も利用者に会いに来られており、職員は、お茶をお出してゆっくりお話できるよう支援されている。普段からユニット間を行き来する利用者があり、お茶を飲みながら過ごされる等して利用者同士が顔なじみになっている。 月1回の食事作りや週1回のおやつ作りでは、利用者が野菜を切ったり、材料を混ぜる等されている。事業所で育てたゴーヤ等を使って1品添える場合もある。「おまんじゅうが食べたい」等、利用者の希望があれば採り入れている。花見の際、お弁当の代わりにテイクアウトのカレーライスにしたことがあり、利用者の評判がたいへんよかったことがある。
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 上の茶屋

(ユニット名) 菖蒲

記入者(管理者)

氏名 菅 良平

評価完了日 平成 26 年 9 月 19 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域と交流を持ちながら楽しく暮らせるように」と地域密着型サービスとしての理念を作り、毎朝申し送りの時に唱和しており、交流を持てるように努めている。	
			(外部評価) 「地域と交流を持ちながら楽しく暮らせるように」「いつも笑顔で穏やかな暮らし」と理念をつくり、法人の運営理念とともに玄関やエントランスに掲示されている。又、法人の管理者会時に話し合い、月目標を決めており、今月は「地方祭など外出時の事故防止に努める」と目標を立て、居間に掲示されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の運動会や文化祭などに利用者と共に積極的に参加している。 毎年夏に夕涼み会を開催し、地域の人たちにも来ていただいている。盆踊りも教えに来てもらったり、当日も一緒に踊ってもらっている。	管理者は、行事以外の日常的な地域との交流が少ないと感じており、事業所の行事時には地域の方達にも呼びかけて、事業所内を見てもらったり利用者で交流してもらいたいと考えておられる。地域の方が参加しやすいような行事内容や案内の仕方等にも工夫して、今後さらに利用者や地域との普段のお付き合いを増やしていかれてほしい。
			(外部評価) 地域の運動会、文化祭等の行事には、毎回5～6名の利用者が見学できるよう支援されている。年4回の中学生、高校生の職場体験や、介護職員初任者研修の受け入れをされている。法人全体で開催する「夕涼み会」は、ご家族や近所の方に無料バザー券付きの案内を出したり、公民館にポスターを貼ってお知らせしており、今年度もご家族や学生、近隣の方等多数の参加があった。利用者もみなと一緒に楽しめるよう、数十名のボランティアの方が協力してくださった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生や高校生の職場体験の受け入れや人材育成のための実習生の受け入れも積極的に行っている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、日頃の利用者の現状やサービスについて報告し、地域の方々からも情報を提供していただき、実践できるように努めている。	
			(外部評価) 会議では、事業所の現状や行事報告、事例報告の他、メンバーからの話題で意見交換することもある。「夕涼み会」等の行事後に、会議を開催する場合もある。公民館長から、市が行う「健康寄席」の内容を紹介してもらい、利用者と職員で参加された。落語が行われる前後に血圧測定があり、管理者は笑いには血圧を下げる効果がある事を実感し、もっと多くの利用者が参加できるようにと考えておられる。会議時には、地域のボランティア代表者も参加されており、行事時のボランティアをお願いしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席して下さった時に報告書を行い、分からないことは相談に乗ってもらっている。 公民館での落語、舞座などにも参加させてもらっている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの方が運営推進会議に参加して下さっており、歯科医の往診に関して相談したところ、歯科医師会に相談するようアドバイスがあり、利用者が必要時に歯科往診を受けることができるようになった。2ヶ月に1回、2名の介護相談員を受け入れており、相談員は、利用者の「事業所での暮らしの感想」や「利用者の昔話」を聞いてくれており、事業所での暮らしを「満足している利用者が多いですよ」と伝えてくださった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会や毎日の申し送りで、その日の様子を振り返り、身体拘束になっていないか話している。玄関は、内側から出られないようになっているが、利用者が外へ行こうとする時は一緒に出掛けられるように支援している。	
			(外部評価) 法人の方針で玄関は、電動ドアで施錠されている。事業所は山際に所在するため、「蜂の被害が多い」ことや「自動車事故予防」のための施錠のようだ。ご家族には、施錠をすることについて説明を行っており、センサーで開錠する方法や開錠のための暗証番号をお伝えしている。転倒が心配される利用者の居室にはセンサーを設置している。職員は、「ちょっと待って」等、声かけについて互いに注意し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  スタッフ会などでも話をしており、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  成年後見人制度について、折に触れ職員にも話をするようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には、ゆっくりと時間を取って説明をしており、起こりうるリスク、重度化などについて十分に説明し理解してもらえるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  介護相談員の方に2ヶ月に一度来てもらって、利用者の相談にのってもらっている。利用者の立場に立った意見をいただき参考にしている。  (外部評価)  毎月、便りや利用者の様子を記入した「近況報告書」、写真1枚をご家族に送付し、又、ご家族の来訪時に職員は、利用者の様子を報告されている。ご家族からの、利用者の「衣服の汚れが気になる」という意見があり、職員で話し合い、居室に新たにかごを置いて、衣服の汚れにご家族が気づいたら、かごに入れてもらえるようにされた。	現在、運営推進会議へのご家族の参加や、事業所サービスへのご家族からの意見や要望は少ないようである。ご家族が話し出しやすいような雰囲気づくりや、参加しやすい運営推進会議のすすめ方等について、会議メンバー等の意見やアイデア等もお聞きしながら、工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃より、職員と話をしたり、不満があれば聞いて運営に反映できるようにしている。	
			(外部評価) 月に1度の全体会やユニット会等では、職員は積極的に意見を出し合っており、参加できなかった職員には会議録を回覧して共有されている。職員から「日中行っていた清掃は、時間がかかるため、掃き掃除や拭き掃除等の一部を夜勤帯にしてはどうか」等の提案があり、採り入れておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者からの報告を良く聞いており、職員個々の勤務状態も把握するように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、内外の研修を受けられるように機会を確保して、順番に参加できるように働きかけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県の地域密着型サービス協会に入っており、相互研修などで他のグループホームとの行き来があったり、交流会などにも参加してお互いの良い所を参考にし、質の向上に努めている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に困っている事を良く聞いて、入所に至るまでの状況もじっくり把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初めて相談に来られた時から、困っていること、心配なことを良く聞いて、どのように支援したらいいか相談しながら信頼関係を築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談に来られた時の状況を確認し、その時何が必要かを相談して、入所に至るかどうかが検討し必要なサービス利用を支援していくように対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者は大先輩であることを職員が常に意識し、家族のように暮らしていくうえで、お互いに支え合っているように留意している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には細かなことも報告し、情報も交換し合って、何かあればお互いに相談し合えるような関係を築くようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔から行っている散髪屋さんや病院など、そのまま続けて行けるように努めている。 ご近所の方や親戚の方なども来られている。 (外部評価) 出身地の「伊方町に行ってみよう」という利用者があり、ご家族と相談して、昨年春に管理者も一緒に出かけられた。自宅周辺の町並みはずいぶん様子が変わっていたようだが、よく通った食堂で食事する等、利用者はたいへん喜ばれたようだ。同級生の医師を受診している利用者があり、職員が付き添い支援されている。昔話も交えて少しおしゃべりもされるようだ。親戚や近所の方、以前利用していたスーパーの店員等も利用者へ会いに来られており、職員は、お茶をお出ししてゆっくりお話できるよう支援されている。普段からユニット間を行き来する利用者があり、お茶を飲みながら過ごされる等して利用者同士が顔なじみになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個別に話を聞いたり、気の合う人同士で出掛けたり、利用者同士の関係が上手く行くように職員が調整している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の事業所へ移られた方でも利用者さんと一緒に遊びに行ったりしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中で声を掛けて把握に努めている。困難な人は、家族や関係者から情報を得るようにしている。 (外部評価) アセスメントは、センター方式を用いて6ヶ月に1回、介護計画作成時に合わせて行われている。職員の気づき等の情報は、随時追加されている。利用者の食事、排泄、入浴等の状況は「日常記録」に記載し、「おいしいものが食べたい」等の利用者の言葉や様子、次の受診日等は日誌に記入して職員間で共有されている。職員は、利用者との日々のかかわりの中から利用者のお好きなことや得意なことを知っており、今後は、利用者が手紙を書くことや利用者野菜や花を作ること等に取り組んでみたいと話しておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用時には、ご本人や家族、関係者などから聴き取るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) お一人おひとりの一日の過ごし方を理解し、言動や動作などから感じ取り、今できることなどの把握に努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人や家族さんとかかわりの中で、思いや意見を聞き、必要な時は医師の意見も聞いて介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画の目標、支援内容を記載した様式に、○×で日々モニタリングを行っておられる。思いを表出しにくい利用者については、ご家族からの情報や職員が利用者の気持ちを推し量って介護計画を作成されている。利用者の状態によっては、服薬による副作用等について医師と相談して、支援内容に採り入れる場合もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者それぞれで、食事量、排泄、バイタル、日々の様子も記録し、職員間でも共有して介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族と連絡を取り、その時々々の要望や状態に応じて対応できるようにしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>公民館行事に参加したり、地域の人たちにボランティアとして来ていただいて、安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族が希望するかかりつけ医にて受診できるようにしている。 家族が同行できない場合は、職員が同行して受診できるように支援している。	
			(外部評価) 現在、利用者全員が事業所の協力医の往診を受けておられる。受診が必要な時にはご家族をお願いしているが、ご家族の都合によっては職員や管理者が同行されている。協力歯科医も2週間に1度往診してくれており、治療の他、口腔ケアも行ってくれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員を配置していないが、同法人内の他の事業所の看護師に相談し、協力を得ている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が入院した際は、本人及び家族にも不安のないように、病院関係者とも情報交換や相談をして早期の退院ができるように努めている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化してきた場合、本人、家族、かかりつけ医と相談し、本人・家族にとってより良い方法をとっていくように努めている。	
			(外部評価) これまでに、事業所で最期まで看取りを支援した経験はないが、利用者が終末期となり、点滴のため毎日通院を支援したケースがある。ご本人、ご家族は、最後は医療機関でと考えている方や「ずっとここで見てほしい」と希望される方もあるようだ。 管理者、職員ともに、「開設以来の利用者もあり、ここで見て差し上げたい」との思いを持っておられる。職員は、「24時間の医療連携が取れば看取り支援が可能ではないか」と話しておられた。看取り支援については、利用者の希望等もうかがいながら、ご家族や関係者とともに取り組みをすすめていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時には、応急手当や初期対応ができるように研修しているが、全ての職員が対応できるようなになっていないので、今後も訓練をしていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練をしており、地域の人にも協力してもらっている。職員も避難訓練を実施することで、災害を想定した避難の方法を身につけられるように努めている。	
			(外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、参加いただいた近所の方やボランティアの方には、利用者の見守りをお願いした。事業所周辺は、数年前台風時に土砂崩れに遭っており、昨年9月の台風の際には、天気予報を見て、当日、近くの法人事業所へ避難した。雨が強くなってから移動したため、スムーズに移動ができず、管理者は「早めの避難の大切さ」を痛感されたようだ。この経験を通じて、管理者は避難についての課題点を明らかにし、今後に活かしたいと考えておられた。10月には、法人内の全施設合同で大雨、浸水、地震等を想定した避難訓練を予定されている。近所の法人外介護施設とは、いざという時、協力し合うことを書面で約束している。利用者3日分の水、乾パン、缶詰等を備蓄しており、管理者は今後も少しずつ増やしていこうと考えておられる。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 朝の申し送りやスタッフ会などで、利用者一人ひとりの人格を尊重するようにし、他の人にプライバシーに関する話を話さないように話している。	
			(外部評価) 職員は、利用者のトイレ使用時や着替えの際には、「扉をきちんと閉めること」「ノックして扉を開けること」に気を付けておられる。調査訪問時、食事に気が向かない利用者に、職員は、「〇〇さん、果物お好きでしょう？今日はキウイですよ」と穏やかな口調ですすめておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) それぞれの利用者によって、声掛けをし、表情などからも思いや希望を汲み取れるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態やその日の体調を把握して、できるだけ希望に沿えるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服などもご自分で選んでもらったり、一緒に選んだりして、その人らしいおしゃれができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事はできたものを運んでもらっているが、月に一回の手作りでは、一緒に切ったり、むいたりしてもらっている。畑でできた野菜も一緒に取りに行ったり、切ったりして準備も手伝ってもらっている。	
			(外部評価) 食事は、副食は法人の厨房から届き、ご飯は事業所で炊いている。職員も利用者と同じものを一緒に食べながらサポート等をされていた。月1回、法人全体の「食事検討委員会」があり、味付け等、利用者、職員の感想を伝えている。月1回の食事作りや週1回のおやつ作りでは、利用者が野菜を切ったり、材料を混ぜる等されている。事業所で育てたゴーヤ等を使って1品添える場合もある。「おまんじゅうが食べたい」等、利用者の希望があれば採り入れている。花見の際、お弁当の代わりにテイクアウトのカレーライスにしたことがあり、利用者の評判がたいへんよかったことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量や水分量などを記録し、バランス良く栄養が摂れるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、その人に応じた口腔ケアをしてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の状態を把握し、それぞれに合わせた声掛けやトイレ誘導をしている。 失敗が少なくなるように時間を見計らったトイレ誘導をしたり、紙パンツを減らせるように支援している。	
			(外部評価) トイレはユニット毎に2ヶ所ずつあり、座位を取りやすいように背もたれのクッションを置いてあるユニットもあった。毎日の排泄チェック表を利用者全員分作成しており、誘導等の支援に活かしておられる。日中、ほとんどの方は布パンツにパッドで過ごされており、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの排便状態を把握し、飲食物や運動なども考えて取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できる体制をとっており、その日の希望を聞いて入っていただいている。ご夫婦の方は一緒に入っていただくこともある。	
			(外部評価) ユニット毎に家庭用浴槽が1つあり、3日に1回程度入浴できるよう支援されている。希望で毎日入る利用者にも対応されている。ご夫婦で一緒に入浴する場合もあるが、そのほかは、職員が1対1で対応しており、職員にお若い頃の話をよく聞かせてくださるようだ。湯船に浸かると体が浮いてしまう利用者には、浴槽内用の椅子を使用して職員2人で介助されている。脱衣所の温度管理には、エアコンや扇風機、換気のみ等、利用者の希望に合わせて調整されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状況に応じて部屋で休んでもらったり、夜も電気をつけたままにしたり、ラジオを聴いてもらったり、その人に合わせて良く眠れる方法を支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの利用者の薬の目的、副作用、用法、用量について情報を共有し、それぞれに合わせた支援の方法をとっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの能力に応じてできる仕事をしてもらったり、楽しみ事や気分転換等の支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) それぞれの体調や希望に沿って出掛けられるように努めている。また、遠くへの外出時は家族や地域の人たちに協力してもらいながら出掛けられるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の「お寿司が食べたい」「買い物がしたい」等の希望に沿って、飲食店やスーパーのフードコート、ドラッグストア等に出かけられるよう支援されている。お祭り好きな利用者が多く、子供太鼓が来てくれた際には、皆で外へ出て見物したり、土居まで祭りを見に行ったこともある。法人の車いす用車両等を利用して全員で外出する機会が多い。訪問調査時、パンの移動販売車が事業所に来ており、利用者は玄関先まで買いに出て来られていた。	現在、全体での外出はあるが、個別の外出支援は少ないようだ。職員は「お一人お一人の希望のところにお連れし、利用者の笑顔をもっと増やしたい」と話しておられた。利用者にとって懐かしい場所や思い出の場所等も探りながら、出かけてみるような支援にも工夫されてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) それぞれの希望や能力に応じて所持してもらったり、買い物で使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) その人に応じて電話をしたり、手紙を出したり、届いたものを読んであげたりして支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間では、ゆったりと過ごせるようにし、金魚や観葉植物などを置き、季節の花なども飾るようにしている。	
			(外部評価) 中庭のテラスは、山の木々を眺めることができ、気分転換できる場所となっている。事業所の各所には、すすき等の季節の草花が飾られており、調査訪問時は、壁にハロウィンの飾り付けがなされていた。利用者の100歳のお誕生日には、畳スペースでボランティアによるフラダンスショーや男性職員の女装等が披露され、利用者はたいへん喜ばれたようだ。利用者の体の調子に合わせて、毎日ラジオ体操やペダル漕ぎ等、運動の時間を設けている。調査訪問時には、名前を書く練習をする方やソファでおしゃべりしている方も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中で、椅子やソファを置いたり、ふと独りになれたりする居場所を作っている。	
			(外部評価) 居室には、家族の写真を飾ったり、以前使われていたダンスや椅子などを持って来てもらって居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、家族の写真を飾ったり、以前使われていたダンスや椅子などを持って来てもらって居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
			(外部評価) 自宅から筆筒や椅子、ハンガーラックを持ち込んだり、ご家族の写真や仏壇を置いてある居室が見られた。「仏壇に供え物したい」と利用者から希望があり、職員がお菓子を用意し、供えている方もある。お気に入りの化粧品の量が少なくなると、職員と一緒に買いに行くこともある。ベッドのシーツの洗濯、布団干しは職員が2週間に1度行っておられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 間違えやすい部屋やトイレにも名前を書いてわかりやすいにしたり、移動するスペースも一人でも動けるように広いスペースをとるように努めている。	
			(外部評価)	